

2016年9月

小田原文化財団プロデュース
『肉声』
2016年11月 公演決定

平素より大変お世話になっております。

2011年の『杉本文楽 曾根崎心中』に始まり、『神秘域』、昨年の『春の便り～能「巢鴨塚」より～』等、古典芸能をベースに新しいジャンルの舞台芸術を発信してきた小田原文化財団は、2016年11月、初の現代朗読劇『肉声』を上演いたします。

構成・演出・美術を杉本博司が手掛ける『肉声』は、20世紀のフランスで詩人・小説家・劇作家・評論家として活躍したジャン・コクトーの戯曲『声/La Voix humaine』（1930年にコメディ・フランセーズにて初演）を下敷きにしつつも、舞台設定を太平洋戦争前後の東京に置き換え、まったく新しい作品として生まれ変わります。

作・演出は、作家・平野啓一郎。

主演に女優・寺島しのぶを迎え、世界で活躍するバイオリニスト・庄司紗矢香が節付・演奏を担当。

異色の顔ぶれで送る実験的パフォーマンス『肉声』にご期待ください。

公益財団法人小田原文化財団
<http://www.odawara-af.com/>

<一般のお客様お問合せ先>

公益財団法人小田原文化財団 tel: 03-3473-5235 (平日 11時～17時) email: info@odawara-af.com

公式 facebook: <https://www.facebook.com/odawaraaf?ref=hl>

公式 twitter: https://twitter.com/odawara_af

杉本博司通信 twitter: https://twitter.com/odawara_staff

『肉声』に寄せて

杉本博司

ジャン・コクトーの一人芝居「声」は1930年頃のパリを舞台に書かれた。携帯電話の普及した現代では考えられないことだが、電話は混線を極めた。肉声が電気信号となって、遠くにいる恋人へと伝わっていく。人の心が機械を通して伝わるという近代社会の悪夢が、この頃始まったのだ。

私はこのコクトーの「声」を、日本の昭和15年に置き換えてみようと思った。そしてモチーフとして建築家堀口捨己の設計したモダニズム邸宅に住む愛人を設定した。堀口は実際、資産家の施主の為に妾宅を設計している。そこに住む愛人は、その趣味がフェンシングと水泳という、当時のモダンガールだった。私は平野啓一郎氏に「声」の翻案と脚本化を依頼した。はたして完成した台本は原曲から遠く飛翔したものとなった。私はこれを翻案ではなく本歌取りと呼ぶことにした。本歌取りとは時に原曲を裏切り、別次元に昇華させる、日本文学の古典に伝わる麻薬的手法だ。

この年、日本は建国二千六百年を祝う祝祭ムードに酔いながらも、国の滅び行く予感も漂っていた。はたして電線で結ばれる男女の声は、人間の魂の声を伝えるだろうか。人間の魂は電気信号化できない。さすれば残るのは「肉声」のはずだ。

『肉声』梗概

平野啓一郎

1940年の晩夏。――

女は、ひとしきり、自宅の庭のプールで泳いだあとで、ぼんやりと蓄音機に耳を傾けていた。

ル・コルビュジェ風の本格的なモダニズム建築。世に妾は数多あれど、こんな妾宅はまたとない。そこは、二人の男女の美と欲望の人口樂園だった。

日米開戦前夜、不安な予感に苛まれつつ、二人は電話で、いつもの“風変わりな遊び”に耽る。……

そして、1945年3月。

度重なる空襲によって、焼け野が原となった東京で、彼らは再び、電話口にいた。世界の破滅を予感し、肉体への渴望を、愛へと昇華しようとする男。その時、女の「肉声」は、彼女の心の「虚」と「実」を、金色の言葉の糸で縫い合わせてゆく。そして、語られた思いがけない言葉。

彼女の真情は、一体、何だったのか？ そして、二人の運命は……？

公演概要

公演タイトル：肉声

公演日程（全4公演）：

11月25日（金）19時開演

11月26日（土）14時開演／18時開演

11月27日（日）14時開演

会場： 草月ホール 東京都港区赤坂 7-2-21 tel: 03-3408-9113

主催 : 公益財団法人小田原文化財団

企画制作 : 公益財団法人小田原文化財団

協賛 : コスチュームナショナル

原案 : ジャン・コクトー

構成・演出・美術 : 杉本博司

作・演出 : 平野啓一郎

節付・演奏 : 庄司紗矢香

主演 : 寺島しのぶ

演出助手 : 桐山知也

<チケット情報>

◎チケット料金（全席指定・税込）S席 6000円

チケット一般発売日： 9月10日（土）

◎チケット取り扱い

- チケットぴあ

0570-02-9999（音声自動応答 Pコード 452-599）

<http://pia.jp/t/>（PC・携帯・スマートフォン共通）

チケットぴあ、セブン-イレブン、サークルK・サンクス各店舗で直接購入可能

- イープラス

<http://eplus.jp/>（PC・携帯）

ファミリーマート各店舗内 Fami ポートで直接購入可能

- ローソンチケット

0570-000-407（オペレーター対応 平日 10:00～20:00）

0570-084-003（音声自動応答 Lコード 34334）

<http://l-tike.com/>（PC・携帯）

ローソン、ミニストップ各店舗内 Loppi で直接購入可能

- カンフェティ

0120-240-540（オペレーター対応 平日 10:00～18:00）

<http://confetti-web.com/>

キャスト

主演 寺島しのぶ(女優)



Shin Suzuki

1972年京都市出身。アプティパ所属。大学卒業後、文学座を経て、舞台、テレビドラマ、映画など多方面で活躍。2003年「赤目四十八瀧心中未遂」、「ヴァイブレータ」で国内外多数の映画賞を受賞。2010年公開「キャタピラー」では日本人として35年ぶりに第60回ベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞。舞台では、2010年「血は立ったまま眠っている」(蜷川幸雄演出)、2015年「禁断の裸体-Toda Nudes Será Castigada-」(三浦大輔演出)、2016年「アルカディア」(栗山民也演出)など話題作に多数出演。2016年夏に出演した「ゴージャズ ゴージャズ」(松尾スズキ演出)が好評を博す。今秋には『肉声』公演の他、映画『秋の理由』、『ぼくのおじさん』(11月3日公開)が控える。

節付・演奏 庄司紗矢香(バイオリニスト)



Shin Suzuki

1983年東京都出身。1999年、第46回パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールに同コンクール史上最年少かつ日本人として初めて優勝。2004年ケルン音楽大学卒業後はパリに居を移し、ヴラディーミル・アシュケナージ、シャルル・デュトワ、チョン・ミョンフンといった世界を代表する指揮者たちと共演を重ねている。サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、ウィーン交響楽団、NHK交響楽団などのコンサートに登場する他、室内楽活動にも力を入れている。また、2015年のメナヘム・プレスラーとの共演をライブ収録した「《雨の歌》LIVE モーツァルト・シューベルト・ブラームス」他CDリリースも多数。2015年、第57回毎日芸術賞を受賞。使用楽器は、1729年製ストラディヴァリウス“レカミエ(Recamier)”。アートにも関心が高く、油絵の個展を開く他、近年はアートとコラボレートしたプロジェクトにも取り組んでいる。

作 平野啓一郎（小説家）



©瀧本幹也

1975年愛知県生まれ。北九州市出身。京都大学法学部卒。1999年在学中に文芸誌「新潮」に投稿した『日蝕』により第120回芥川賞を受賞。以後数々の作品を発表、各国で翻訳紹介されている。2004年文化庁の「文化交流使」としてパリに滞在。2008年より三島由紀夫文学賞選考委員、東川写真賞審査員を務める。美術、音楽にも造詣が深く、幅広いジャンルで批評を執筆。2009年から7年間日本経済新聞の「アートレビュー」欄を担当。2014年フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受章。著書は小説『葬送』『滴り落ちる時計たちの波紋』『決壊』（芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞）『ドーン』（ドゥマゴ文学賞受賞）『透明な迷宮』他、エッセイ・対談集に『私とは何か「個人」から「分人」へ』『「生命力」の行方～変わりゆく世界と分人主義』等がある。最新作は、小説『マチネの終わりに』。

構成・演出・美術 杉本博司



1948年東京生まれ。立教大学卒業後渡米、1974年よりニューヨーク在住。徹底的にコンセプトを練り上げ、精緻な技術によって表現される銀塩写真作品は世界中の美術館に収蔵されている。近年は設計へも活動の幅を広げ、2008年建築設計事務所「新素材研究所」を設立、IZU PHOTO MUSEUM、MOA美術館（来年2月リニューアルオープン予定）などを手掛ける。主な著書に『空間感』、『現な像』『アートの起源』。古美術、伝統芸能に対する造詣も深く、演出を手掛けた『杉本文楽 曾根崎心中付り観音廻り』公演は海外でも高い評価を受ける。今秋東京都写真美術館にて個展開催。1988年毎日芸術賞、2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞、2010年秋の紫綬褒章を受章。2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ受勲。

【公益財団法人小田原文化財団 組織概要】

一般財団法人設立:平成 21 年 12 月 22 日

公益財団法人認定:平成 23 年 4 月 1 日

古典演劇から現代演劇までの伝承・普及を図り、美術品等を保存・公開し、又これらの調査・研究を行うことで、伝統芸能を次世代へ継承しつつ、現代美術の振興発展に努め、時代・ジャンルを越えて芸術文化の振興により、世界的な視野に立って我が国の文化の向上に寄与することを目的として活動。

2017 年秋には神奈川県小田原市に、芸術文化の振興・発展を目指す「江之浦測候所」が開館予定。

<活動の内容>

1. 自然の中に設えた舞台を利用し、古典演劇、現代演劇の企画、制作、公演及びその支援による普及振興
2. 杉本コレクションを核とした美術品等の保存及び展示公開
3. 古代から現代の、美術品、伝統建築及び庭園等の空間芸術に至るまで、時代・ジャンルを越えた芸術文化に関する調査・研究及びその普及振興のための研究会・講演会等の企画開催

<主な活動実績>

- 2011 年 8 月 人形浄瑠璃文楽公演「杉本文楽 木偶坊 入情 曾根崎心中付り観音廻り」
@KAAT 神奈川芸術劇場
- 2011 年 9 月 野村万作×萬斎×杉本博司・三番叟公演「神秘域 OUR MAGIC HOUR」
@KAAT 神奈川芸術劇場(ヨコハマトリエンナーレ 2011)
- 2013 年 3 月 「SANBASO, DIVINE DANCE MANSAI NOMURA+ HIROSHI SUGIMOTO」
@NY グッゲンハイム美術館
- 2013 年 4 月 野村萬斎×杉本博司・三番叟公演「神秘域その弐」
@渋谷区文化総合センター大和田さくらホール
- 2013 年 9-10 月 人形浄瑠璃文楽公演「Sugimoto Bunraku Sonezaki Shinju」(欧州 3 ヶ国)
- 2014 年 3 月 人形浄瑠璃文楽公演「杉本文楽 曾根崎心中付り観音廻り」
@世田谷パブリックシアター(東京)、フェスティバルホール(大阪)
- 2014 年 8 月 2014 Singapore International Festival of Arts 公演「SAMBASO」
@ビクトリアシアター(シンガポール)
- 2015 年 10 月 「三茶三味～三味線音楽を聴く～」公演
@世田谷パブリックシアター(東京)
- 2015 年 11 月 朗読能 公演「春の便り～能『巣鴨塚』より～」
@あうるすぽっと(東京)

※ 他 所蔵作品展覧会貸出し実績多数